

「ENUM研究グループ」活動報告

2002/11/27

ENUM研究グループ事務局(JPNIC)

■ はじめに

- 3回の研究会, 5回の分科会をおこない, 「第1次報告書」を作成中
- 会員のコメント, IETFの最新状況, 加筆をおこない, 12月始めに発行予定

■ 検討項目

- ENUM技術の調査
- 「ENUM導入によって解決されるもの」の分類, 整理

■ 今後の検討の進め方

オペレータENUMとユーザENUMとに分離して検討をおこなう.

- オペレータENUM
 - 事業者がサービスを構築するために利用, 事業者がDNSレコードを管理
 - 事業者間共通のデータベースとしてのENUMサービス
 - 登録のための共通フォーマットやインタフェース
 - 要求される性能, 信頼性, スケーラビリティ
 - セキュリティ要件. クエリのアクセス制御
 - DNS(tier)の構成管理.
- ユーザENUM
 - ユーザによる電話番号のレコード変更
 - プライバシ
 - DNS(tier)の構成管理. 事業者との関係.

■ 「番号」に関連するENUM課題

研究グループでのENUMの検討のなかで、番号に関する制度上の課題について紹介する：

- 電気通信番号を利用して本来識別する役務や設備以外の 役務やアプリケーションを対応づけることに関する制度面からの可否.
- 電気通信番号に対応するENUMレコードの管理権限. 払い出しを受けた事業者か? ユーザか? 事業者またはユーザに委任された他事業者か?
- ユーザENUMを展開した場合の、主にENUMのレコードを識別するため 電気通信番号の払い出しの可能性.